

高校と地域の連携・協働

県教育庁高校教育課長

藤岡 隆 幸



三月、卒業を迎える高校生は、目標実現に向けてそれぞれの道に進まれますが、中には進学や就職を機に地元を離れ、さらには県外へ進む人もいることでしょう。

高校生活は、社会・職業への移行を準備する時期であり、高校卒業後の社会との接続を見通したキャリア教育により、望ましい勤労観・職業観を育成することが重要です。高校での学習内容や形成される価値観は、その後の生き方に大きな影響を与えます。

一方、本県では、人口減少、加えて若年層の大都市圏への流出によって、地域活力の維持・発展や産業政策を進める上で大きな課題があります。そうした中で、高校には地域振興の核としての役割が期待されており、生徒の社会的・職業的自立と次代を担う人づくりに向け、いかに高校と地域が連携し、双方の教育力を高めるかが重要です。

現在、高校では地域や企業と連携し、課題解決型学習である「地域学」の取組を進めており、地元自治体・議会への提言、地域資源を用いた商品開発や観光企画づくり、地域の魅力発信、防災やハンセン病などをテーマとした学習、学科連携による六次産業化の取組や学校間の連携講座など、様々な特色ある学びを工夫・創

出しています。こうした取組は、高校生が地域の魅力や課題を知り、課題解決力や協働する力、コミュニケーション能力、当事者意識や主体性を身に付けていくことにつながります。

また、県教育委員会では、本年度から、企業体験バスツアーと企業説明会から成る県内企業との交流事業を始めており、進学割合が高い普通系学科の一・二年生を対象に、県内の産業や企業の魅力を知ってもらい、主体的に進路選択する力の育成と将来の地元定着やUターン就職につながる意識の醸成を図っています。高校までに、地域の良さや地元企業をよく知っていた人ほど出身地への愛着を強く持ち、Uターン希望割合が高いといわれます。

この二月、県教育委員会では二〇二八年度を目標とする「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」を策定したところですが、地域との連携・協働による教育の推進を、魅力ある高等学校づくりの方策の重要な柱と位置付けています。引き続き、高校と地域の連携・協働を図り、まちづくりや地域の行事、インターンシップや産業に関わる取組への参加の機会を通じて、高校生の成長を支援するとともに、将来の地域の担い手の育成につなげていきたいと考えています。

